

新実在論の視点による社会運動理論についての一試論

——哲学の社会学理論への援用可能性の模索——

立命館アジア太平洋大学 清家久美

1 研究目的と方法

本報告の目的は、Maurizio Ferraris, Markus Gabriel ら、哲学における新しい展開としての新実在論の視点を通して、Alberto Melucci における運動論の方法論を再検討することである。また本報告は、哲学の社会学理論への援用可能性の模索をもその目的としている。

Melucci は、社会運動は個人とシステムの諸装置との「境界領域」に位置づけられており、それは直接的に体験される日常の社会生活と社会の間に位置するものであると考えられるという。運動は当該社会の潜在領域に存在する知覚のメカニズムに触れるものであり、社会の最先端における変化と同時にそれは生起する。すなわち社会運動が提起するイシューは常に当該社会全体にとって非常に重要な意味を持つ。社会運動は、社会において個人の感覚として感じられる違和感から生起するという社会問題の指標ともなり、多様な仕方で国家やグローバルシステムとしての社会の変化を露呈するのである。

彼は、さらに身体における変調、不調をも境界領域とし、日々の体験は行為の意味内容に影響を及ぼし、それらは自らのアイデンティティにも関連しているという。アイデンティティとは自覚的な行為の産物であり、自らのリフレクションの結果である。「環境や社会的関係によって課せられた境界の内側で、一貫性を構築し自己認識していくのはまさに私たち自身であり、私たちのアイデンティティは自覚的な個体化のプロセスと一致する傾向にある」。すなわち、アイデンティティを状況というよりは、行為として体験する。つまりそれらは絶えずプロセスの中にあり、彼は構築的な特徴を表現するためにアイデンティティではなく、〈アイデンティゼーション〉としている。（『プレイング・セルフ』 pp.2-5,43-48,665-68, 101-102,198-203.）こうした Melucci の運動論の新実在論の視点からの再検討を研究目的とする。

2 考察と結論

上記した Melucci の「境界領域」を対象に、身体感覚をも含め意味論的に理解する方法を、新実在論の視点を通して捉え直すことを試みる。新実在論における自然主義批判、実証主義批判としての「事実性」を前提に「境界領域」を把握することによって、社会運動から分析的に抽象される社会の諸問題を引き受け、応答するという彼の考える社会学の目的をも再検討した。

また、前後したが、本報告における新実在論とは、M. Gabriel のそれである。彼は後期シェリングの「神話の哲学」研究をもとに、世界とは何であるかと問い、新たな哲学的展開としての新実在論を提唱する。彼はドイツ観念論において Kant 以来伝統的に、批判的に踏襲された「理性」の外部に「事実存在」を設定し、その上で「世界は存在しない」ことを主張し、さらに自然主義や物理主義などの自然科学的な世界理解を存在論から批判する。彼のいう新実在論とは、意味の場の存在論を意味し、また「事実性」に焦点化している。本報告の考察と結論としては、両者の意味論の検討と、「事実性」概念から Melucci の運動論の再検討を試みている。

文献

- Adorno, Theodor W, Popper, Karl R et al., 1969, *Der Positivismusstreit in der deutschen Soziologie*, Neuwied/Berlin: Luchterhand. (=1979, 城塚登・浜井修訳『社会科学の論理:ドイツ社会学における実証主義論争』河出書房新社.)
- Ferraris, Maurizio (translated by Sarah De Sanctis), 2015, *Introduction to New Realism*, London/New York: Bloomsbury Academic.
- Gabriel, Markus and Zizek, Slavoj, 2009, *Mythology, Madness, and Laughter: Subjectivity in German Idealism*, New York/London: Continuum. (=2015, 大河内泰樹・斎藤幸平監訳『神話・狂気・哄笑:ドイツ観念論における主体性』堀之内出版.)
- Melucci, Alberto, 1989, *Nomads of the Present: Social Movements and Individual Needs in Contemporary Society*, Philadelphia: Temple University Press. (=1997, 山之内靖・貴堂嘉之・宮崎かすみ訳『現在に生きる遊牧民:新しい公共空間の創出に向けて』岩波書店.)
- , 1996a, *The Playing Self: Person and Meaning in the Planetary Society*, New York: Cambridge University Press. (= 2008, 新原道信・長谷川啓介・鈴木鉄忠訳『プレイング・セルフ—惑星社会における人間と意味』ハーベスト社.)
- , 1996b, *Challenging Codes. Collective Action in the Information Age*, New York: Cambridge University Press.